

邑南町の公民館の特徴（現状）

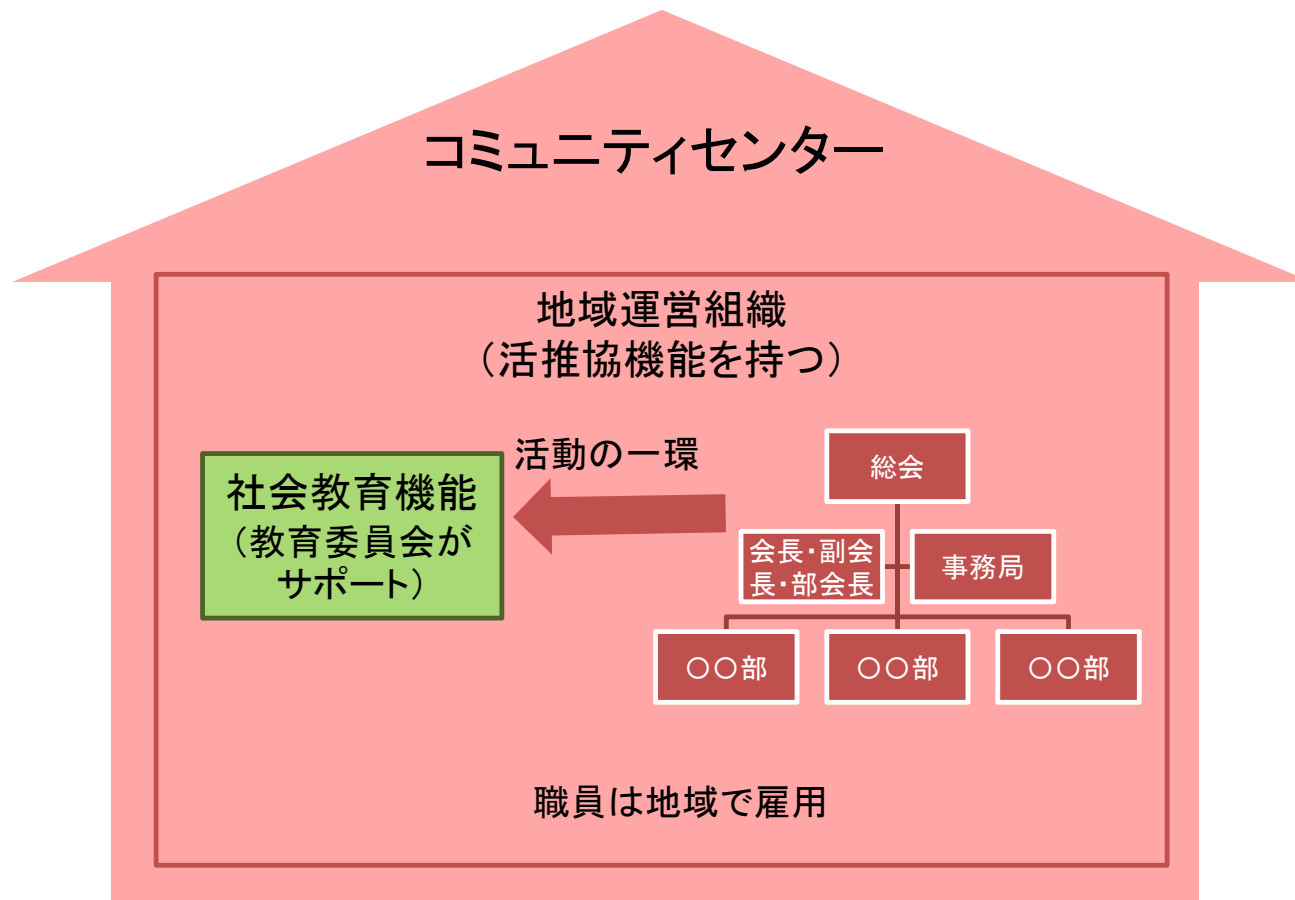
【現状】

- 公民館は生涯学習課(教育委員会)が所管する社会教育施設。町内12館。
- 職員は3人体制。
館長(非常勤、地区から選出)、
主事(常勤、町職員が着任←邑南町の特徴)
事務員(常勤、地区内外問わず雇用)
- 公民館の活動を「公民館活動推進協議会(以下、活推協)」で協議している。
- 活推協の実情は地区により様々。
瑞穂地域の活推協には部会があるところも。
- 公民館の地域への関わり方は、公民館により様々。
(例)地区別戦略への関わり方

邑南町の公民館活動推進協議会（活推協）と住民組織の関係 ※地域みらい課調べ

	構成員	協議内容	該当する地区の例	よい点	課題	体制図
①	公民館を利用して活動する団体等	公民館に関することのみ	口羽	・名称どおり、公民館の活動を協議する場。	・住民組織と公民館の連携が取りづらい	
②	自治会長など、地域の代表者	公民館に関することのみ (地区のこと全般は別組織で協議)	日和 (地区全般のことは日和地区振興協議会で協議)	・名称どおり、公民館の活動を協議する場。 ・住民組織と公民館が連携しやすい。	・メンバーが重複する協議体が複数ある。	
③	自治会長など、地域の代表者	地区のこと全般	中野	・地区のことを協議する唯一の場として機能している。	・公民館主導のため、地区の住民主体性が薄れるおそれがある。 ・建前と実態が異なる。	

邑南町で想定される、公民館と地域運営組織の関係 タイプE：地域自立型



<メリット>

- ・ 地域運営組織の主体性が確保できる。
- ・ 雇用人数や給与は地域側の裁量で決めることができる。

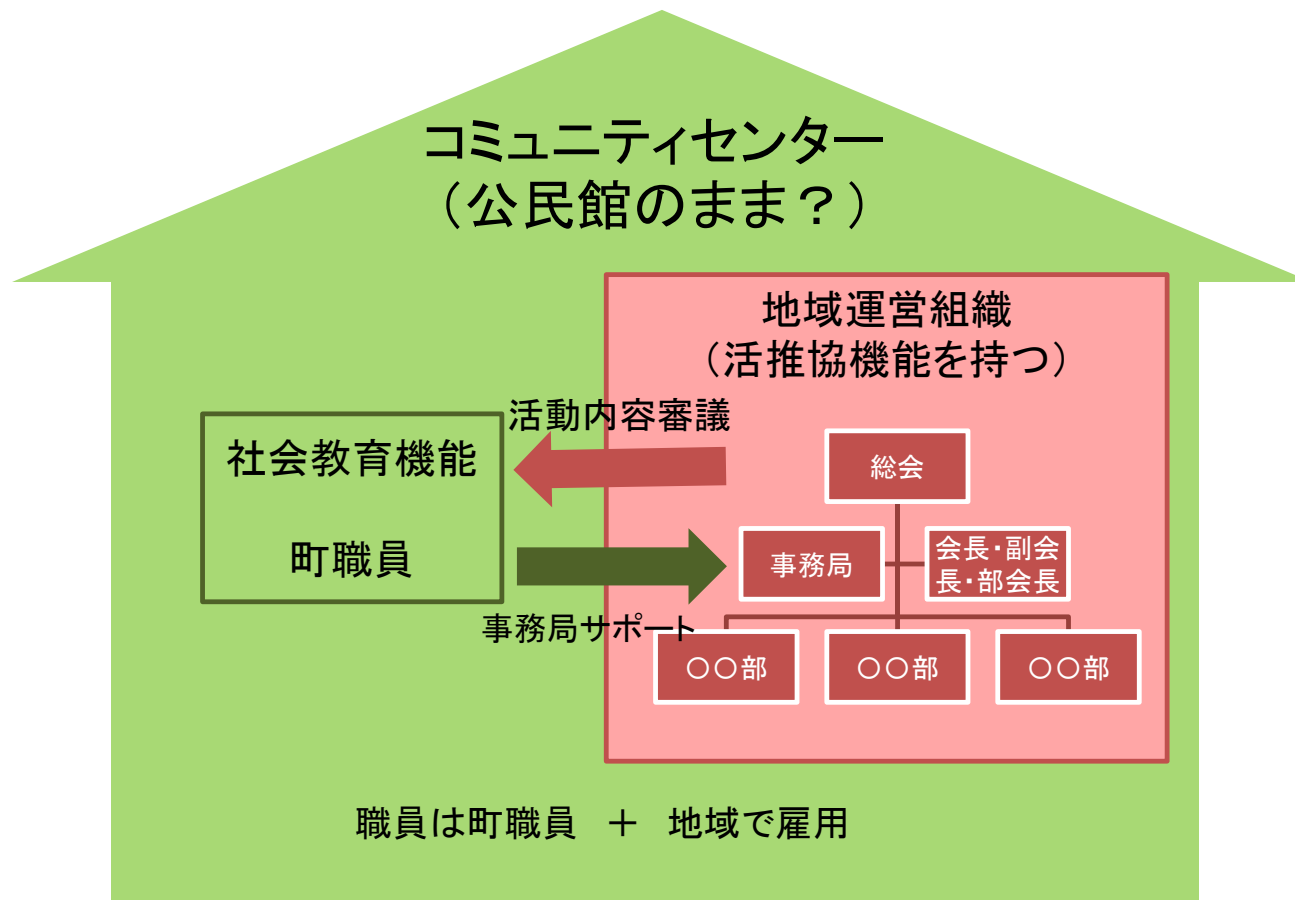
<デメリット>

- ・ 地域運営組織の負担が大きいため、体制が確立された地区でないと難しい。

<邑南町では...>

- ・ 既存の地区協議会や地域づくり組織等を母体として地域運営組織を設立することが想定される。
- ・ 現状が表の①や②の地区が適していると考えられる。

邑南町で想定される、公民館と地域運営組織の関係 タイプF：行政サポート型



<メリット>

- ・職員配置により、地域運営組織の負担が軽減される。
- ・地域と行政の協働が図れる。

<デメリット>

- ・地域運営組織の主体性が薄れる。
- ・地域と行政の給与の差、どちらが上かの問題、仕事の線引きの問題が生じる。

<邑南町では...>

- ・活推協を母体として地域運営組織を設立することが想定される。
- ・現状が表の③の地区が適していると考えられる。

ご意見をいただきたいこと

- ・公民館の職員に求める役割は？(社会教育or事務局)
- ・コミュニティセンター方式は、地域にとってやりやすいか？(役場でやってほしいor自分たちでやりたい)
- ・活推協と地域運営組織の関係(活推協を母体とするor活推協とは別で設立)
- ・地域運営組織の事務局と、公民館(コミュニティセンター)の事務局の関係